

## 2021 J3 ■順位表 ■第12節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）  
（注：#印は消化試合が  
数字分多い）

1#1	岐阜	22p	+8	19	11	---	---
2	岩手	21p	+8	19	11	AO	
3	富山	21p	+5	18	13	A●	
4	宮崎	20p	+4	16	12	HO	
1#5	熊本	20p	+4	14	10	H●	
6	福島	20p	+3	14	11	AO	
1#7	八戸	16p	-1	12	13	H△	
8	鹿児島	15p	0	13	13		
9	長野	14p	+9	18	9		
10	YS横浜	12p	-5	10	15	H●	
11	藤枝	11p	-4	12	16	AO	
12	今治	10p	0	12	12	A●	
13	沼津	10p	-8	7	15	HO	
14	讃岐	9p	-8	10	18	HO	
15	鳥取	8p	-15	9	24	AO	

## 次回HomeGame

第16節 vs. 福島ユナイテッド

8/28(土) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

## today's guest : 鹿児島ユナイテッド

2020 J3 18勝4分12敗 勝ち点58: 4位

## 直近の対決と結果

2020/10/11  
J3 - 21節@長良川

岐阜 0-1 鹿児島

## ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜

2021/06/20 J3 - 12節@夢スタ  
今治 3-0 岐阜2021/06/12 J3 - 11節@長良川  
岐阜 3-1 宮崎2021/06/06 J3 - 10節@とうスタ  
福島 1-2 岐阜

鹿児島ユナイテッド

2021/06/19 J3 - 12節@白波スタ  
鹿児島 0-0 八戸2021/06/13 J3 - 11節@愛鷹  
沼津 0-2 鹿児島2021/06/09 天皇杯@ベスタ  
福岡 6-0 鹿児島

●シーズンの折り返しを迎えようとしている2021年J3リーグ。6/12(土)第11節で初めて宮崎をホームに迎えたFC岐阜は、序盤から試合の主導権を握る。そして前半21分に#22船津徹也のダイビングヘッドで先制、前半23分には#10川西翔太のワンタッチゴールで追加点を奪う。前半アディショナルタイムにセットプレーで1点を失ってしまうが、後半64分に#42柏木陽介のCKを#10川西が押し込んで3点目。そのまま試合は終了、3-1で連勝を達成した。続く6/20(日)第12節・アウェイ今治戦は、試合序盤に#42柏木が負傷で交替。その影響もあってか攻守共に精彩を欠いた岐阜は、下位の今治に次々と失点。そして1点も返すことができず、0-3で敗戦した。

この2試合で連勝を達成できなかったFC岐阜。幸いなことに他にも勝ち点を取りこぼした上位チームが多く、かろうじて首位の座を保っているが、1試合辺りの平均勝ち点で言えば、現在の岐阜は1.8。岩手・富山に抜かれて3位になってしまう。また、過去5年間のJ3優勝チームは、1試合辺りの平均勝ち点は2.0前後で、その点から見ても現時点の岐阜の成績は足りていない。もちろん、シーズン最終節が終了した際に1位になっていれば問題はないが、これ以上勝ち点を失っては、目標を達成できなくなってしまう。今こそ、チームが一丸となって強い危機意識と、改めて勝利への飽くなき執念をピッチ上で表現して、そして勝利を掴み取る勇姿を僕らサポーターに見せて欲しい。

さて、今季前半戦・ホーム最後の対戦相手は、鹿児島ユナイテッドFCだ。一昨年に岐阜と同じくJ3に降格し、昨季は1年でのJ2復帰を目指したが4位(岐阜は昨季6位)に終わったチームだ。今季は横浜FMヘッドコーチのアーサー・パパス氏を監督として迎え、再びJ2昇格を目指して戦っていたが、順位が低迷する中、5/28(金)にパパス監督が家庭の事情により突如退任。現在は大島康明ヘッドコーチが暫定監督として指揮を執っている。大島暫定監督の指揮下では2勝1分1敗、現在は順位を8位に上げてきている。ましてや岐阜は痛い敗戦の直後。油断できる相手ではない。

鹿児島との通算対戦成績は、岐阜の1勝1分2敗・4得点2失点と岐阜が負け越している。昨季の第1戦・7/29(水)アウェイ第7節は4-0で快勝したが、10/11(日)第21節ホーム戦では0-1で敗れている。ホームでの対戦成績は1分1敗・1失点。確かに今節は、宝曆治水の偉業をたたえた「岐阜・鹿児島姉妹県盟約50周年」姉妹県マッチと銘打たれているが、だからといってFC岐阜がホーム戦で未勝利・無得点で良いはずがない。そして、僕らは一昨年のJ2残留争い終盤での0-1の悔しい敗戦を忘れる訳にはいかない。今日は何としても勝たなくてはならない。

鹿児島の要注意選手には、現在5ゴールの#36米澤令衣を挙げる。右サイドからDFラインを突破してくる、この昨季チーム得点王をしっかり防ぐことが岐阜の守備陣には求められる。また、昨季まで3シーズン広島から岐阜にレンタルで在籍し、今季からは鹿児島にレンタルされた#15イヨハ理ヘンリーだが、2月末に全治10週間の負傷をしており、今季は一度もベンチ入りしていないため、「凱旋」は難しそうだ。

新型コロナウイルスによる岐阜県内の『まん延防止等重点措置』は解除されたが、引き続き岐阜市等では7/4(日)まで営業時間短縮要請が出されている。また、徐々に感染者は減少しているが、医療体制の改善にはまだ時間がかかる見通しだ。変異株による急激な感染拡大にも注意しなくてはならない。ワクチン接種は急ピッチで進められているが、まだ十分には行き渡っていない。従って、これまでと同様に感染防止に充分に注意しながら、選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを縁に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。前節での悔しい敗戦を糧に、必ずや選手たちは僕らの期待に応えてくれるはずだ。

そして、次節・7/4(日)第14節アウェイ長野戦にて前半戦が終了し(岐阜は第15節に試合がない)、2ヶ月近くもの中断期間に入る2021年J3リーグ。また、7/16(金)から8/13(金)まで第2ウインドー(夏の移籍期間)が開く。この中断期間にチームの補強・底上げと戦術の浸透を図り、さらに力強く成長したFC岐阜が見られることを期待して、2ヶ月後に再びホーム・長良川に集うことにしよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

## 【第11節】岐阜3-1 宮崎

●上位・福島とのアウェイを制して、ホームに帰ってきたけれど、再び上位・宮崎との一戦。開始早々に激しい当たりで#2 橋本和が倒され、しばらく動けない。少し不安な立ち上がり。ただ、その後は何とかペースを握る岐阜。宮崎の攻撃は前線にロングボールを入れて、そこからはショートパスを繋ぐor ボールを奪い直してゴールに迫るパターンが多いように感じていたのだけど、この日の岐阜の守備陣は宮崎の前線にフタをしてボールを受けられないようにしつつ、ボールの出し所を探す選手にプレスをかけていた。これが奏功して、迫力のある宮崎の攻撃が陰を潜めていたと思う。ただ、岐阜の攻撃もなかなかボールが繋がらないなあ…とっていたら、うまいこと何本かパスが繋がると一気に攻勢に持ってけるのも今季のウチの特徴ですね(苦笑)。まあ、#10川西翔太・#41吉濱遼平・#42 柏木陽介と、J3では反則級の3人を並べておけば、そりゃそーですわねという説も多分にあります(苦笑)。#22 船津徹也の豪快なダイビングヘッドで先制した直後に、#10川西翔太のワンタッチゴール。いずれも左サイドからのクロスだった。あれは(試合後の#22 船津のインタビューからすると)スカウティングの成果だったのかな?ただ、前半アディショナルタイムのCKでの失点はいただけない。というか、あれってオウンゴールじゃないのかしら?ちょっと気まずい雰囲気になりつつ前半終了。後半は、修正してきた宮崎にボールを保持されるも、最後のところで身体を張る守備でゴールを割らせない。1点差でハラハラする展開、だけど僕の気のせい、この日はスタジアムの雰囲気がなんだか違った。スタジアム全体からクラブ音が響いてくる。そんな中、獲得したCKで#42 柏木がボールをセットして……いやあ、あーゆー軌道のボールは、J1の試合では観たことあったけど。グイーンとゲームみたいに曲がってピタリと落ちて、そこに詰めてた#10川西がポコリ(苦笑)。これで楽になった岐阜は、いつもの如く(?)選手を交替させて逃げ切りを図る。そして3-1での勝利。暫定首位はオマケとして、大事な上位対決を制することができた。ただ、どのチームに勝とうが勝ち点3は手に入る訳で。YS 横浜戦が本当に惜しいと感じてしまう。あの試合の反省を忘れずに、今後も戦って欲しい。(ささたく)

●「いいチームだな、宮崎って。」試合が終わった直後に、思わずつぶやいてしまったのがコレだった。GKから繋いでいくスタイルには慣れ親しんではいたが、ただ、後ろで回すんじゃなく、早めに縦に出したり、それを受ける積極果敢なFWの存在。失点は、そのFWに決められたもの(実際のところは船津サンの得点だと思うけど)。いつぞやの、どこぞのチームの上位互換か?というようなスタイルで、こりゃ、上位に来るのも納得だと感心した次第。好感の持てるチーム。それが宮崎に対する印象だった。だからといって、その対戦相手に好感が持てない、という意味ではない(苦笑)。特に、この試合の得点シーンには心躍るモノがあったワケだし。前線の3人の連携はもちろん、その両ワイドが絡んでの得点は見応えがあった。ああいうのが一試合の中で頻繁に見られるのならいいんだけどね。なんというか、ボールの扱いがいつも雑過ぎて、あっけなく相手ボールになってしまうのは何回見ても慣れることがない。支配率なぞ飾りだ!とはわかっていても、だからといってボールをむざむざと相手に渡してしまうのはいかがなものか?少なくとも、ボクの趣味には合わないなあ(個人的な意見です)。むしろ、自分の立ち位置は「このクラブを応援する。勝ち負けやカテゴリーは関係ない。」なんだけれども、それでも見ていて楽しくなるようなサッカーの方がいいとは思うよね。とはいえ、「力任せ、能力任せでぶん殴る試合」も悪くはない。『最新鋭のミサイルを振り回して殴り倒す。』(白鳥先生、ちよいと作品のセリフをお借りしました。ゴメンナサイ!)って

のもイイもんだ(笑)。それと、セット・プレーは武器になるね!ナニ?あの測ったような弾道は。軽く当ててやるだけで、ボールが自らゴールに飛び込んでいくような印象。目が洗われるような思いがしたよ。太陽が燦燦と輝き始めてきたのかな?

今節の勝利で待望の首位。暫定の……という枕詞は付くけれど、この位置をキープし続けられれば。昇格は自ずと付いてくる。そのためにも、夏休み前に勝ち点を荒稼ぎしていこう。次節もよろしくお願いします!(ぐん)

●価値観が違うというか、哲学が違うというか、志が違うというか。この試合の勝利を語る形容が他に思いつかない。というのも、「いいサッカー」をやっていたのは宮崎だったから。CKの時の『セット』が顕著で、前半は岐阜側ゴールエリアにGKとキッカーを除く全員が入るような「押しくらまんじゅう」状態。あれでは桐畑もポジションに困ってしまう。ところが後半では宮崎の選手はペナサークル付近に位置取り、キックの瞬間に中に展開してくるパターンに変化。「ウチはまだまだ引き出しはありますよ、どうします?岐阜さん」というような揺さぶり。とても昨年までJFLにいたとは思えない「サッカーの完成度」で、これなら昇格1年目で上位にしっかり根を下ろしているのも当然だ。

一方の岐阜は、前衛の機械化師団は川西・吉濱・柏木の『緑の3連星』。ここにワタルと船津が絡んで、これで何とかなってしまう。「チーム全体で連動して相手を崩して」とか、それって旨いんですか?ってな感じ。いや、まったく文句はないです。今季の岐阜にとって「いいサッカー」とはまさに「勝つサッカー」であり、その勝ち方はまったく問題ではない。「勝つ」ために一番可能性が上がる戦術が『緑の3連星』を筆頭に「選手のスキル」での攻撃で、それがキチンと具現化しているのだから、果たして何の不満がありません。

このやり方の欠点は、『緑の3連星』は3人揃っていないと怖くないこと。この試合のように2人が下がる時には、少なくとも1点、願わくば2点をリードして残りの20分程度を相手の攻撃を受けつつ逃げ切るという戦い方になる。その条件が整わない時にどうなるか。どうするか。いやいや、全然構わないさ。だって、その条件が整えばいいのだから。これからも、ずーっと。ね。(吉田鑄造)

## 【第12節】今治0-3 岐阜

●試合開始5分足らずで#42 柏木陽介が腿裏の負傷で離脱するのは想定外だったろう。だけど、#42 柏木と同じポジションに#16 富樫佑太を入れるのは何故?2人は同じ仕事をさせるには全くスタイルの異なる選手、#16 富樫を入れるなら1トップに置くべきじゃないかなと僕は思った。そして、やはり攻撃が機能しない。確かに#42 柏木は特別な選手かもしれないけれど、数試合で彼なしではダメなチームになってしまったということなのかな……(溜息)。それと、これまでの多くの試合では中盤からDFラインでしっかりボールを奪うことができていた(奪った後のボールの処理は……(苦笑))のが、この試合ではなかなかできなかった。その影響もあってか、3CBが普段よりも動き回らせて、PA内への侵入も多かったように感じた。そして、いわゆる“デュエル”の部分で、多くは今治の選手たちの方が勝っていた。もちろん岐阜の選手たちも頑張っていたとは思いますが、しかし相手より上回らなければ勝てない。勝利への執念、ボールへの集中力、動き出しの早さと厳しさ……たしかに今治は予想以上に暑かった。消耗戦の様相も見せていた。だけど、岐阜の方がもっと暑いよ?そして、こういう時こそメンタル的な強さがモノをいうハズだ。試合開始直前に2位の富山が負けて油断した?それとも慎重になりすぎた?でも、その富山に圧勝した長野との試合を僕らも残してるんだよ?今治が下位チームだからと侮った?少し前に、最下位だったYS 横浜に逆転負けしたこと

をもう忘れてしまったの？まあ、今治の『#10有間潤の日』だったのは認めざるを得ないけれど。これまでほとんど出場していないハズなのに、今日だけで1A2G。左サイドを突破して思い切りの良いクロス、そして2点とも思い切りの良い鋭いミドルだった。ああいった積極的なプレーを、岐阜の選手たちにはもっと見せて欲しかった。

これで下位チームに2敗。幸か不幸か、他の上位チームも勝ち点を取りこぼしてくれたので首位をキープ(?)。まあ勝ち点差3以内に6チームも入って大混戦ですね(苦笑)。だけど、こんなサッカーを続けてたんじゃ、残念ながら首位陥落も時間の問題だ。そして2人も選手が負傷交替。当然ながらチームとして危機感はあるだろう。それを、ピッチ上で僕らに表現して欲しい。この悔しい敗戦を、決して無駄にしないで欲しい。(ささたく)

●う〜ん、なんというか、残念な、とてもとても残念な試合だった……と、まずはオブラートにくるんで書いてみた。いや、何も得るものがない、実に酷い試合だったね。あ、ただ、現地組のサポートは良く響いていたよ。DAZNから聞こえてくるのは、常にウチのリズム。ホーム・チームを凌駕、圧倒するサポートには感謝しかない。本当にありがとう！お疲れ様でした。できれば、結果で報われてほしかったけど……。しかし、最初から最後まで、まったくハマらない試合だった。交代出場した2人が揃って途中交代を余儀なくされるケースなんて見たことないよ。それでも、ケガで交代した歩夢は仕方ないとしても、だ。富樫に何をさせたかったんだ？ウチのベンチは。彼には気の毒だったというより他はない気がするね。

しかし、柏木の負傷退場がこれほどの影響を及ぼすとは。今後に暗雲どころの話じゃないよ。彼が不在になった時のプランがないってことなの？開幕の時はいなかった選手だよ？柏木コケたら皆コケた、とかは勘弁してほしい。それでも、後半には遼平のバー直撃とか船津の惜しいシュートもあったけど、内容から言うと「そりゃあ、サッカーの神様もクロスバーもそっぽ向くよな。」と思ってしまうのがツライ。

これで早くも4敗目。試合数の1/3負けてるクラブが昇格云々とか、って感じまである。ただでさえ、試合数が減っているのにね。昨季は同じスコアから大逆転して「この勝利はデカイゾ！」となったのに6位。今季はダメを押されてシャットアウト負け。先が思いやられるな。むしろ、この後の試合で勝ち星を重ねていければいいけど、ウチに対する対策を練ってきた相手に対し、それを上回ることができるのか。今のスタイルがハマって先制できれば勝てるけど、ハマらなければズルズルと……ってんじゃダメなんだけどな。前節で昇格ロードに青信号が再点灯、と思ってたけど、それは錯覚で、開幕からずっと黄色信号が点滅してるのかもね。厳しいな。

まあ、無理やりにも、ポジティブ・シンキングすると、こんな敗戦をしても暫定首位とか(試合数の関係でそうなるだけで、実質5位)、あと2試合粘れば夏休み。リーグの中断期間で立て直すゾ、とかかな。

それでも次の試合はやってきます。とにかく、どんな手を使っても、中断前の2試合を勝ち抜きましょう！柏木と歩夢のケガが軽傷であることと早期復帰を祈ってます！（ぐん）

●なんか、逆なんじゃないか？って気がしてきた。派手な大敗を喫した時に「長いシーズンだもん、こんな日もあるさ」と自らを慰めるサポーターは多い(ぼくもそうだ)けど、本当は快勝した時に「長いシーズンだもん、こんな日もあるさ」と自らを鎮めるのが、今季の岐阜に関しては正しいのかもしれない。

第11節の試合感想で「川西・吉濱・柏木の『緑の3連星』。ここにワタルと船津が絡んで、これで何とかなくなってしまおう。『チーム全体で連動して相手を崩して』とか、それって旨いんですか？ってな感じ」と書いた(※ちなみに、その原稿は今治戦の前に書いてます(苦笑))けれど、その『緑の3連星』の1人・柏木が故障で開始数分でピッチを離れてしまい、蹂

躪プランはいきなり終了。ではプランBだなど思いきや、監督の采配は柏木→富樫で、やり方はそのまんま。もちろんスペクタクルなど起きるはずもなく、琉球時代に「抜け出して決める」ことで結果を残してきた富樫は左サイドで戸惑ってしまう。そして守備では右サイドがまるで機能せず、3バックの横(WBの裏)にスペースを作る今治のパスワーク(それ自体はサッカー教材に使用できるくらいのオーソドックスなものだったが)に翻弄され、前半の2点はいずれもそこで起点を作られてのもの。もうリーグ戦も半分近くを終えて、なんなんでしょうね。

後半になると、「チーム全体のパフォーマンスが落ちる」今治の悪いクセにも助けられて岐阜攻勢の時間帯も多くなるが、ゴールは割れず。アユムの抜け出しに対して今治DFが見事なまわし蹴りを顔面に見舞ってくれたりも。あれは主審からは見えなかったでしょうね。でも岐阜ゴール裏からは丸見えだったので、ノー・ファールの判定には岐阜サポはもちろん、選手の何人かは主審への信頼をなくしてしまったように思えた。あれが「主審が気づかなかった」のではなく「気づいていてノー・ファール」だったのなら、サッカーが球技からヴァーリ・トゥード(『すべてが有効』の格闘技)に変わっていく、そのきっかけにはなるのかもしれない。願わくば、年内くらいはあの主審の名前は試合記録で視たくないね(本心)。

とはいえ、主審の判定は激辛&激マズではあってもスパイスに過ぎず、負けた理由は明らかに岐阜側にある。『準備不足』と『柔軟性不足』。トーマの1トップや富樫のサイドに拘るあたり、監督さんは「俺が『こいつはここで使う』と決めたらそこで使うんだ！」というかなり強い意志を持っているように感じる。別にそれは悪いことではない。「ブレない」というのは大事な資質でもある。その考え方で勝てばいいのだ。でも、試合が想定通りに動かなかった時にどうするのか。

何度も書いてると思うけど、今季の岐阜のサッカーは『勝利』にしか価値が見えない。観ていて楽しいサッカーでもなく、若手選手の成長を実感出来るでもない。自分で掛け金をどんどん吊り上げていくやり方だ。麻雀任侠漫画のセリフに「売ったケンカは勝たにゃあならん。たとえ負けても、勝たにゃあならんじゃ！」というのがあったのを思い出す。

消化試合が1つ多いとはいえ首位なのだから、監督の「勝てば文句ねえんだろ」志向はうまく機能している、の、だろうね。試合を観ている感じだと、こんな内容でも首位にいるなんて『希望拷問』以外の何物でもないのだけど。手法(プロセス)はもう期待してないので、とりあえず勝ってください。(吉田 鑄造)

# 【非公式小ネタ】 FC 岐阜、長良川 300 ゴール達成

●あくまで手集計ですが、宮崎戦の前半 23 分・川西のゴールが FC 岐阜の『長良川』での通算 300 ゴールでした（その後、川西がもう 1 点獲ったので現在は通算 301 ゴール）。公式戦のみ（東海リーグも JFL も含みます）、メドウは含みません。せっかくなんで整理してみました。

【17G】佐藤洸一

【16G】難波宏明

【14G】西川優大

【12G】片桐淳至、ナザリト、古橋亨梧

【11G】川西翔太、レオミネイロ

【10G】嶋田正吾、染矢一樹

(【8G】OwnGoal)

【7G】風間宏矢、永島悠史

【5G】押谷祐樹、菅和範、高地系治

【4G】粟飯原尚平、阿部正紀、大本祐槻、小島宏美、庄司悦大、高木和正、ヘニキ、山岸祐也、ライアン・デ・フリース

【3G】ジョルジーニョ、高崎寛之、富樫佑太、中島賢星

【2G】相川進也、秋田英義、石川大地、エヴァンドロ、遠藤純輝、小野悠斗、甲斐健太郎、片山真人、菊池完、クリスチャン、三都主アレサンドロ、瀧谷亮、田中パウロ淳一、冨成慎司、西脇良平、樋口寛規、益山司、松江克樹、三ッ田啓希、ミシャエル、森山泰行、藪内健人、吉本一謙、レオナルドロシャ

【1G】青木翼、新井辰也、井上平、梅田高志、太田圭輔、大友慧、岡根直哉、苅部隆太郎、木谷公亮、クレイトンドミンゲス、ジウシーニョ、杉本裕之、スティッペ、田代雅也、田中智大、ダニロ、田森大己、デズモンド、當間建文、中島康平、永芳卓磨、橋口拓哉、橋本卓、バージェ、比嘉諒人、廣田隆治、深津康太、福村貴幸、富士祐樹、船津徹也、ブルーノ、水野泰輔、宮沢正史、宮本航汰、村田透馬、山川智弘、吉村光示、レレウ、和多田充寿

●佐藤洸一は在籍が長かったこともあるけど、さすがの得点王。特筆はナザリトと古橋亨梧だ。ナザは 1 年、古橋は 1 年半の在籍でこのゴール数だ。

いま岐阜に在籍の選手では、11G の川西がトップ。4G に粟飯原、3G で富樫と中島が続きます。もともともと、ホーム長良川でゴールを見せてくれ！

※注：FC 岐阜の黎明期（2002～2004 年）の全社県予選等では試合会場が不明の公式戦が 15 試合ありますが、計算から除外しています。（吉田铸造）